

北 どころ本

創刊号（毎月1日発行）

本に関するミニコミ紙！

地域情報も一緒に発信！

4月23日は本を贈ろう！

古本屋を開業して、文豪・倉田百三の故郷であるこの土地で、いつかは本をメインにした

広報誌を出してみたいと考えていました。どうせやるなら、地域の情報も発信するミニコミ誌にできないか。今回、そうした想いに賛同していただける方々の助力を得て、「どころろあ」を創刊することができました。

「どころ」はどら書房の「どら」、道楽という意味を内包、利益オンリーではないという気持ちを含めたつもり。「くろあ」は英語で「時を告げる人」という意味合いで、ふたつを合体して「どころろあ」としました。もちろん「民衆を率いる自由の女神」の絵で知られるフランスの画家の「ドラクロワ」のイメージを意識しております。

創刊号ということで、本の情報を中心とした内容になっていますが、今後は読者のみなさんにどんどん活用していただければ、と願っています。さまざまな情報を募集しておりますので、

連絡をお待ちしています。よろしく願います。

（どら書房店主・赤川仁洋）

《情報&原稿を募集します!!》

- 仲間募集
- 教室&講座案内
- イベント情報
- あなたの大切な本の紹介

※応募先は「編集後記」に記します。

今月のどらさん



この絵をブックカバーにしています。

絵・風太

「本の日」を知っていますか？ 4月23日は「サン・ジョルデーの日」と言われ、スペインのカタルーニャ地方では親しい人々に本を贈る記念日だったので、それが日本にも紹介されました。国際連合教育科学文化機関（UNESCO）は4月23日を「世界図書・著作デー」（世界本の日）に制定、日本では4月23日が「子供読書の日」と定められています。

「本の日」に、あなたのお気に入りの一冊を大切な人に贈ってみませんか？ どころ書房では、そのためのオリジナル文庫本カバーを用意、希望者には無料で配布しています。そのほかにも多彩な文庫本カバーを制作、「今月のどらさん」の絵も同時、文庫本カバーのリストに追加していく予定です。

※サン・ジョルデーは、ドラゴン退治の伝承を持つカタルーニャ地方の守護聖人。4月23日はこの聖人が殉教した命日で、その記念日に男女が赤いバラを贈りあうという風習があり、それが20世紀初頭に本に変化したといわれている。

デ・アミーチス「クオレ」

少年の友情を知った

少年の日に夢中になって読み、感動した本なのに、今はあまり話題にもならなくなっている本がありま
す。私にとってそんな1つがイタリ
アの作家デ・アミーチスが書いた長
編小説「クオレ」です。

読んだのは60年も前、小学生だっ
たころです。庄原町が山内、高など
6つの村と合併して庄原市になる直
前のころです。創元社という出版社
が「世界少年少女文学全集」を出し
ていて、その中の1巻でした。

「クオレ」というのはイタリア語
で「心」という言葉だそうです。日
本でいうと小学4年生の主人公エン
リーコが、学校生活の1年間を日記
にしたという形式で書かれています。
クラスには、乱暴な子がいたり、
威張り屋がいたり、貧しい子がいた
り、努力家がいたりします。いろい
ろな衝突が起こります。心とむ出来
事もあります。その中で、エンリー
コが親友のガツローネたちと力を合
わせ問題を解決していきます。
私はそのころ、自分のクラスを見
渡しながらどの子がエンリーコで、

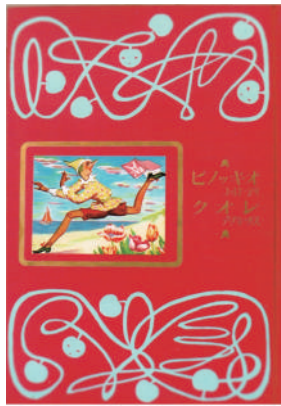
どの子がガツローネのかなと密か
に当てはめ、同じような学校生活を
夢見たものです。何よりもそうして

ちの「心」が成長していきました。
本の中では毎月1回、先生のお話
があり、その1つが、ある少年がお
母さんを訪ねてアルゼンチンまでひ
とり旅をする話なのです。有名な「母
を訪ねて三千里」の物語なのです。
他にも、少年筆耕の話もありました。

また読んでみたい本①

少年少女たちへ

音谷 健郎



世界の古典文学には
たくさんの名作があ
ります。そんな名作
の中から筆者の心に
残る作品を今の少年
少女たちにも読んで
もらいたいと思い、
毎月1冊ずつ紹介し
ていきます。

第1回目はE デ・アミーチスの『クオレ』
です。もし興味を持ったらぜひ読んでみ
てください。

筆者紹介：1944年、旧・庄原町生まれ。新聞
記者、大学講師を歴て現在、庄原市東本町在
住。大阪文学学校講師

友情が深まっていくのを見て、自分
も成長していく気がしたものです。
今で言ったら、金八先生の「3年B組」
の小学生版だと思えばわかり易い
です。ただ、この本では、金八先生に
頼るのではなく、少年たち自身が立
ち向かっていきます。そして少年た

老いた身で筆耕をするお父さんを助
けるために、夜中にこっそり起きて
お父さんの筆に似せて筆耕を助ける
少年の話もありました。筆耕とい
うのは、コピー機のない時代に字を書
き写す仕事です。どれも感動的な話
でした。

この本を読めば、イタリアの少年
の周りに起こるいろいろなことを知
ることが出来たので、違う世界を経
験した気持ちになりました。自分も
「友情」を結びたいと切に願ったも
のです。

記憶だけでは不安なので物置から
探し出して見たら、本は1953年
に「ピノキオ」の話と合わせて、「南
欧編2」として出版されていました。
2段組200ページ余りの長編で
す。手あかがついていて、何日もか
けて読んだ日がしのばれました。
ネットで見たら「クオレ愛の学校」
の題名でいまも岩波書店、ポプラ社、
偕成文庫などいくつかの出版社から
出されているようです。

最後のページをめくったら、終業
式の日の場面で、お父さんがエン
リーコにこう言います。
「おまえが、だれにでもいい、悪
いことをした思った、その子のとこ
ろにいつて、ゆるしてくれるように、
そのことをわすれてくれるように、
とお願いなさい。だれもありませんか」
と。エンリーコは、きっぱり「あり
ません」と答えました。
この本は、どら書房の談話室に預
けておくので、手に取ってみてくだ
さい。



どら書房の店主が毎月オススメ本を3冊選んでご紹介します。

「ベルリンの奇跡」

竹之内響介・著 東京新聞

サッカーの日本代表が初めてオリンピックに参加した1936年のベルリン大会。初戦で、優勝候補のスウェーデンを破るという大金星を上げて世界を驚愕させる。蹴球と呼ばれていた日本のサッカーの黎明期から、ベルリンでの世紀のジャイアントキリングの舞台裏が、ナチスドイツの戦時下という世相と共に克明にレポートされている。その翌年から日本は太平洋戦争に突入、暗黒の時代へと入っていく。



とにかく日本代表のメンバーが個性豊かで、それぞれのエピソードが抜群におもしろい。今年の大河ドラマではないが、真田十勇士の物語を連想した。ベルリン11勇士？昨年11月に刊行。

「和泉の国の青春」

宮本常一・著 八坂書房

民俗学の巨人、宮本常一作品のアンソロジー。しょっぱなから、灰買いという商売のことが書かれた文章には度肝を抜かれた。大きな駄ぶご(ムシロで作った籠状の容器)をになって、町屋のかまどでできた灰を買って肥料屋に持っていく。そうした灰のうち、もっとも高価で取引されたのが、葬儀場で出た灰、つまり死人を焼いた灰で、肥料として一番ききめがあったのだそうだ。焼き場の灰盗人も横行してた。



宮本常一は、研究のために日本全国をくまなく巡り、生涯の4000日以上を旅に費やしたという旅の鉄人でもある。山口の周防大島出身で、広島県の北の地にも何度も足を運んで、「中国風土記」(中国新聞連載)の著作もある。

「大誘拐」

天藤真・著 創元推理文庫

今年のカンタベリーベスト10という企画が恒例になっている。それでは、歴代のナンバーワンの作品はどれだろうか。かつて、ミステリーのガイドブックを作成するために、7人の担当者が集まって自由にベスト作品を選定し評価をつけ、その総計を集計したことがあるという。そのとき全員が最高点をつけた作品が「大誘拐」なのである。



82歳になる老婆が誘拐され、その身代金が百億円！書き下ろされたのが1978年で、その当時の百億円！いやはやスケールがでかいし発想も奇抜。傑作、いや大傑作だと納得。読後感がさわやかで、みんなが幸せになれる作品なのです。

《サンプル広告》

土井漢方薬局(平成27年12月オープン)

あなたにあった漢方薬をお作りします。また、処方箋調剤も受け付けております。足腰の悪い方にはご自宅まで配達もしておりますので、ぜひご利用ください。

東洋医学と西洋医学を専門に学んだ鍼灸師免許をもつ薬剤師が地域の皆様の健康を守り信頼されるかかりつけ薬局として誠実にご相談に応じます。

▶営業時間：9時～18時まで

▶定休日：日曜／祝日

▶電話：0824-55-6461

▶場所：三次市南畑敷町38-4

※お車でご来店の方、「カメラのサエダ」「ムラタケ」を目印にお入りください。

「しけた顔しちゃってさあ」

はすっぱな物言いに驚いて振り返ると、黒と赤の人影が目に入った。

それが、ゴスロリ、ゴシック&ロリータという衣装であることは、恭介も知ってはいた。だが、実物を見るのは初めてだった。ふたりとも編み上げ式のコルセットでウエストを締めあげて、ハイネックの上着のえりやそで、ミニ丈のスカートのすそにはふんだんに豪華なレースが使われている。しかし、透き通るような白い肌の足は素足で、どういいうわけか漆塗りの下駄を履いている。

「身投げだったら、他でやってちょうだい」

赤いゴスロリを着た女が言った。長い髪を和風に巻き上げて、べっ甲のかんざしで留めている。まるで日本人形にアンティークドールの衣装を着させたような装いだ、不思議としっくりなじんでいる。

「土左衛門になったら、後片付けが大変なのよ」

黒のゴスロリを着た女が言った。ふたりとも二十歳前後だろうか。姉妹なのか、切れ長の目をした細面の顔は、よく似ている。そして、なかなかの美人だ。

「けんかを売っとるんか」

恭介が立ち上がって、サングラスを外して凄んだ。業務用の顔だ。

「まるで張り子の虎だね」

口元に冷やかな笑みを浮かべて、赤い方が言った。心の中を見透かされたような気がした。

「素直になりなよ」

・現代御伽草子・

第1回 『はだかの王様』

壺木冬彦(あきゆふひこ)

地元になんだ民話を題材にした、ファンタジーを連載いたします。

でまだ響いている。

「はだかになって、楽になりなよ」

恭介の金色の髪を、赤い爪の手がぐりぐりと撫でた。

「生きてるうちが花なんだから」

ささやくようなやさしい声音が、両耳からシンクロして、母親の声となつてじんわり胸に染みた。ふっと人の気配が消えた。驚いて周囲を見渡すと、池のほとりにひとり立っている自分に気づいた。

(クスリもやつたらんのに、幻覚を見るようになったらおしまいや)

夕日を浴びた水面を見ると、黒と赤の立派な二匹の鯉が、並んで悠然と泳いでいる。

「結局、恭ちゃんは、なんで家出をしたんや？」

山路の問いかけを、恭介は適当な理由をつけてごまかした。本当は理由などなかったのだ。ただただ、都会に行ってみたかった。山に囲まれた田舎の暮しはうんざりだった。

「おれのせいじゃろう。おれをかばったんで、恭ちゃんは……」

源太の言葉を、違うと恭介は強く否定した。いじめを受けていた源太をかばって、クラスのカラスのボス猿の山城とやりあったのは確かだが、目的は

源太の姉の紗代だった。源太と仲良くなれば、紗代に近づけると期待した。しかし、紗代にはすでに恋人がいて、それも家出の一因だったのかもしれない。

「恭ちゃんが、あげんな馬鹿を怖がるわけがないじゃろうが。前科三犯じゃぞ」

山路が誇らしそうに言った。停学三回、それは十年たった今でも高校の記録らしい。いっぽしのワルを気づつて、突っ張っていた。世間知らずのガキだった。

大阪に出て、ハンパなバイトで食いつないでいた。これじゃあだめだと、地廻りのヤクザの舎弟になった。やらされたのが、振り込め詐欺の金の受け取りだった。腰の曲がった婆さんのような目を見た途端、金を突き返してその場から遁走した。本物のワルにもなれなかった。「なあ恭ちゃん、帰って来なよ。おれを助けてくれよ」

コップに地酒をつぎながら、山路が話をむしかえた。山路の実家は民宿を経営していたが、今は建物を改装して、高齢者のグループホームを運営している。今年からデイサービスも始めたらしい。慢性的な人不足で、とくに若い男手が欲しいとい

う。

「風呂に入るか」

酒を飲みほして、恭介が立ちあがった。

他に宿泊客はおらず、風呂場は貸し切り状態だ。恭介は勢いよくはだかになった。背中痛いほど視線を感じた。不動明王の刺青が、未完成のまま無様な姿を晒している。ハンパ者の刻印だった。こんな馬鹿野郎が、爺さん婆さんの世話ができるかよ、山路への返答だった。

鼻歌が聞こえてきた。ドラえものの歌だ。テンパると、無意識に口ずさむ。変わっていない。気持ち落ち着けるおまじないか。源太のあだ名はのび太だった。

洗い場で髪を洗っているときだった。背後に人の気配を感じた。振り向くと山路が、タオルを持って立っていた。

「背中、洗ってやるよ」

ゴシゴシと背中を擦り始めた。おいおい、そんなことをやっても消えやしないさ。

「やっぱり、恭ちゃんはいいい体をしとる。風呂がいちばん大変なんよ。寝たきりの婆ちゃんも、こんなたくましい腕で抱かれたら昇天するで」
「そりゃ、やばいかな」

隣のガランで体を洗っていた源太がそう言って笑った

「姉ちゃんも、山路のところまで働いてるんよ」

「子供ふたりを抱えて、シングルマザーで頑張ってる」

山路が言った。

「恭ちゃん、帰って来なよ」

源太の言葉に、恭介はシャワーを浴びて、涙を洗い流した。

※備北丘陵公園内にある国兼池には、伝承されている物語がある。大水のたびに堤が切れて氾濫を起こす溜池を鎮守するために、お国とお兼という美しい姉妹が人柱として、若い命を捧げた。それからは、堤が切れることもなくなった。やがてその溜池は国兼池と呼ばれるようになり、いつの頃から黒と赤の大きな二匹の鯉が、水をいっばいたたえた池の中で、悠然と泳ぐようになったという。

国兼池の近くで黒と赤の派手な衣装をつけた姉妹に出会ったら、それはお国とお兼の仮の現身(うつせみ)かもしれない。二十歳になるかならないかで早世した姉妹は、娘時代を取り戻すかのように、華やかなファッションを楽しんでいるらしい。

しょうばら桜物語 キャンペーン開催中!

庄原地域は面積も広く高低差があるため、一カ月近くの間、各所で桜の花見を楽しむことができます。その桜スポットを舞台に、さまざまなイベントを開催する観光キャンペーンを行っています。

キャンペーン期間：4月1日(金)～4月30日(土)

[イベント情報]

- 庄原さくらフェスティバル 4月10日(日)10:00～16:00 上野総合公園 (芝生広場)
- さくらドッグフェス 4月9日(土) 9:30～16:00
- ディスクドッグ競技会 4月9日(土)・10日(日) 9:30～16:00] 国営備北丘陵公園 (つどいの里)
- しょうばら桜フォトコンテスト 応募締め切り：4月30日(土)

▶詳しくはキャンペーンWEBサイトへ shobara-sakura.jp



古本買取

高価買取、とは言えませんが、気軽にご相談ください。店内専用通貨の「どら紙幣」での買取は1.5倍以上の査定。寄贈はもちろん大歓迎!

喫茶コーナー

モカ、コロンビア、グアテマラ&キリマンジャロなど、本格コーヒーを飲むことができます(通常価格150円)。

まちの古本屋さん
どら書房

古書探索の旅に、お立ち寄りください。

漫画コーナー

閲覧専用(無料開放)で、「あしたのジョー」や「包丁人味平」、「キャプテン」等の懐かしいタイトルも並んでいます。

店頭コーナー

百円本や、0円本(タダの本)があります。

● 庄原市中本町2-1-10

● 定休日：毎週火曜日 / 第1・3月曜日

● 営業時間：9:30～19:00

● TEL: 090(9913)3052

第1回 庄原さくらフェスティバル

2016年
4月10日(日)
10時～16時

日本桜名所100選に選ばれた上野公園の桜を見に行こう。
今年初めての桜フェスティバル。
おいしい、たのしいときめきを見つけよう!

場所：庄原市上野総合公園

Facebookもチェック 

<https://www.facebook.com/庄原さくらフェスティバル-1687429348181408/>

お問い合わせ：庄原市観光協会 庄原支部 TEL:0824-72-2121

『庄原メイプルラジオ』

4月3日(日)
13時スタート!!

庄原で過ごすパーソナリティ達の何気ない日常の話と地域の情報やゲストを招いて放送する地域密着エンタメ放送!!

陶芸教室

自作のお茶碗で
お茶を飲んで
みませんか?

- 金・土・日曜日開催
- 場所：県立広島大学前簡易郵便局に併設
- 費用：一回500円+材料費
- 連絡先：0824(74)0686 洲沢(スザワ)

どらくろあ 掲示板

地域のイベント情報やメンバー募集など
情報掲示板です。

YouTube

和家チャンネル：



— 参加者募集 —

MTEC (Miyoshi Tennis Enjoy Club)

みよし運動公園の屋内&屋外コートで、硬式テニスの例会を行っています。

- ・ 火曜日 (10:00 ~ 12:00)
- ・ 水曜日 (10:00 ~ 12:00)
- ・ 土曜日 (12:00 ~ 14:00)

入会金、会費等は必要なく、コート利用料だけを当日の参加者で分割負担。現在、50人をこえる会員がいて、ご自分のペースでエンジョイされています。例会だけではなく定期的にMTECの大会や他の地域のテニスクラブとの交流会を開催。興味のある方は、一度、例会にご参加ください。見学も歓迎します。

連絡先：中川 (☎080-5610-2376)

第3回山法師コンサート

パリヤーンが神石高原町にやってくる!!

2016年4月8日(金) 開場 18:30 開演 19:00

前売り 2,000円 当日 2,500円 (高校生以下無料)

■会場：総合交流センターじんせきの里 ■問合せ：0847-87-0044 佐藤

パリヤーン [続木カ + 谷川賢作]

ジャズに軸足を置きつつポップスから童謡などジャンルにとらわれず演奏する二人組。

発行：どら書房
〒727-0012
庄原市中本町 2-1-10
☎090(9913)3052(赤川)
e-mail: touzin@sannet.ne.jp

誌面デザイン：ROUTE183
協賛：九日市愛好会

編集後記

◇「どらくろあ」創刊号をお届けします。第1号なので、創刊号と書きましたが、本音は骨格ばかりのサンプル誌、これからみなさんの感想やご意見をいただきながら、本物のミニコミ誌として成長できると願っています。

◇連載企画の「また読んでみたい本」、青少年の多感な時期の読書の指標にどうぞ。「今月の三冊」は、できるだけ広い分野から選択したつもりです。「現代御伽草子」、作者としては反省多く、もっともつとおもしろいものを書かねばと前を向くしかありません。◇表紙で掲示していますが、情報や原稿を随時、募集しています。次号(5月1日発行予定)の締切は、4月20日になります。応募や問い合わせは、どら書房・赤川まで。

九日市だより

天正年間(440年前)に物々交換で始まった市(いち)が、空き店舗を活用した市街地活性化ボランティア活動で復活して16年目を迎えました。

ひょうばらくんちいち 「庄原九日市」

主催：九日市愛好会

開催日時：毎月9日 9時～13時まで

場所：広島県庄原市中本町 まちなか広場付近(ノボリが目印)

駐車場：近くに市の駐車場があります。

《出店市》

- 食の市 ▶ 珍しい農産物と海産物 ▶ 餅、漬物など多種類の手作り開発加工食品
▶ 手作りの菓子、ケーキ ▶ コーヒーショップ ▶ キムチ ▶ 焼きそば
▶ 焼き芋 ▶ 地域グループの店 ▶ 庄原産の醤油・味噌 ▶ その他
- 手仕事市 ▶ 和洋服リフォームの手芸品 ▶ 木材加工手芸品 ▶ ガラス玉
▶ 陶芸品 ▶ 手描き友禅 ▶ 創作手芸品 ▶ その他
- 自由市 ▶ 骨董品 ▶ リサイクル品 ▶ 花類 ▶ 刃物(研ぎ) ▶ タオル ▶ 靴
▶ 衣類(新品、時代物) ▶ 下駄 ▶ エステ ▶ 住宅生活関連 ▶ 似顔絵
▶ 学校児童生徒の作品 ▶ イベント情報 ▶ 不動産情報 ▶ 姓名判断
▶ その他

出店者 地元商店・近隣の有志・中国地方全域・愛媛県から毎月50店舗前後
申し込みは毎月20日までに事務局へ

詳しくは ホームページ <http://www.kunchi-ichi.jp>

問い合わせ窓口 九日市愛好会事務局

〒727-0013 広島県庄原市西本町 2-1-10 楽笑座内

TEL. & FAX 0824-72-8285

感謝と笑顔・人のぬくもりが伝わる「くんちいち」

